



北海道日高高等学校

〒055-1130 北海道沙流郡
日高町松風町一丁目一六番地の二
<http://www.hokkaido-hidaka-hs.jp/>



二〇二〇年の結びにあたり

北海道日高高等学校長 谷 尊 仁

二〇二〇年（令和二年）は、年明けから新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、今に至っても収束の目処が立っていない状況にあります。夏に開催予定であった「二〇二〇年東京オリムピック」も来年に延期され、高体連や高文連の大会も軒並み中止せざるを得ない状況となりました。大会に出場し、結果を残すことを目標として頑張ってきた多くの子供たちの無念な気持ちや、残念でなりません。

「ソーシャルディスタンスの確保」など新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のために、四月の宿泊研修は中止に、例年七月に行っていた伝統ある「もれび祭」も実施することが出来ませんでした。そんな中で十月九日、規模を縮小して「体育大会」も「もれび祭」を抱き合わせで実施、十月に実施予定だった二年生の見学旅行も、十一月十六日から二十日までの期間で何とか実施すること出来ました。

日高高校は、今年度も「地域とともにある学校」をスローガンに教育活動を進めてまいりましたが、今年はコロナ禍で生徒たちの活動も制限され、例年よりも地域行事やボランティアアに参加することが出来ませんでした。

誰かが経験したことを最大限にやってみることを最優先に教育活動の充実を図っているところで、保護者や地域の皆様におかれましては、今後とも産業学習並びに本校の教育活動にご支援・ご協力をお願い致します。

十一月十六日、十一月二十日の五日間、生徒六名と引率三名で沖縄見学旅行へ行ってきました。今年度の見学旅行は新型コロナウイルスの感染拡大によって実施が危ぶまれておりましたが、引率団の先生や旅行会社の皆様をはじめ、その他各団体のご協力もあり無事に実施することが出来ました。

本校の教育活動においても、感染拡大防止対策のために三月中旬から五月末まで臨時休業を強いられ、学校での授業を行うことが出来ませんでした。「三密

新学期を迎え日高に戻ってきた在校生、気持ちも新たに日高高校に入学した新入生も、寮からの外出自粛生活や分散しての食事など不自由な生活を送り、さらに感染者の多い地域に親元のある生徒は、夏季長期休業期間に帰省することが出来ない状況にありました。

令和三年が明るい年になることを祈念して、令和二年最後のご挨拶と致します。

今年度は感染を防止するためにマスク着用の徹底・アルコール消毒の徹底等、できる

限りの対策をしながらの実施となりました。生徒たちにとっては例年と比べ窮屈な旅行に感じたかもしれませんが、しっかりとルールを守ってくれましたし、「見学旅行楽しかった！」という声が多く聞こえたので担任として嬉しい限りです。今回の旅行が彼らにとって「高校生活の大切な思い出」の一つとなってくれることを願っています。



2年生・見学旅行の様子（瀬底島）



←3日目 美ら海水族館



2日目 首里城公園→

見学旅行を終えて

2学年担任 清谷 凌

第二回いじめ把握のためのアンケート調査を終えて

教頭 近藤 伸

1 新型コロナウイルス禍における北海道の状況

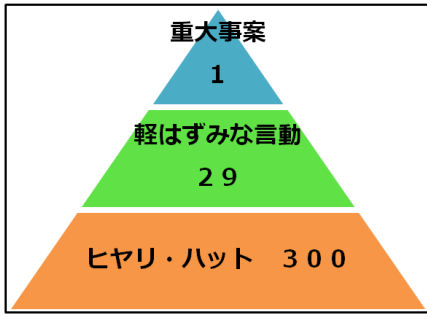
新年度から九か月。日高町の寒さも日に日に厳しくなる季節となりましたが、新型コロナウイルスの影響により、学校行事の中止や延期、活動自粛など、「新しい生活様式」の啓蒙、感染拡大防止対策を実施しながら、学習保障、学校行事や様々な教育活動を推進しています。

このような状況下においても生徒達は、学校生活だけではなく、寮生活、活動自粛等、精神的な不安定さやストレスを抱えながらそれぞれの進路実現や学習活動に真摯に取り組んでいます。

北海道においては、本年四月から八月末までのいじめの認知件数は5742件（小中高）であり、学校がいじめを初期段階のものも含めて（嫌な思いをしたことがある）積極的に認知しているという調査結果が出ている一方で、いじめを認知していない場合も、いじめが潜在している可能性があると、いじめを強く認識しておく必要があります。

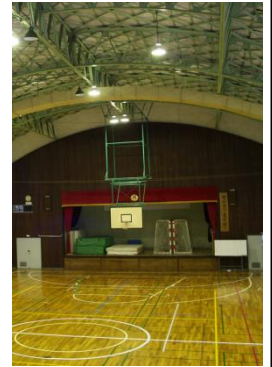
2 「嫌がらせ（ハラスメント）を生まない環境の醸成」

「嫌がらせ（ハラスメント）」は、「他人に対して意図的に不快な思いをさせる・言うこと」と定義されます。学校という同じ時間を共有する空間では、何気ない言動により無意識のうちに相手を不快にってしまうこと、ヒヤリとすること、ハットとすること、ハイツの法則（ハインリッヒの三角形【図1】）では、「一つの重大な事故の背景には、軽い事故が二十九件あり、その背後には三百件のヒヤリ・ハットがある」と言われています。



【図1】ハインリッヒの三角形

「からかってみただけ」といような悪ふざけから、本人を精神的に追い詰めてしまうようなものまで千差万別です。聞こえるように悪口を言う。学力や運動神経など能力を否



定する。誹謗中傷、噂をたてられる。無視される。仲間はずれ。SNSで悪口を書かれる。暴力など危害を加えられるなど、様々な「嫌がらせ」が考えられます。

重大な事案になる前に、「ヒヤリ」・「ハット」する言動を注視し、教職員全体で情報共有しながら、生徒が安心して学校生活を送るためにいじめを生まない環境の醸成、居場所づくり、絆づくりを支援し、いじめ（嫌な思いをする）の正確な認知、未然防止・早期発見・再発防止に努めるため、ことが学校・教職員・地域・保護者の責務と考えます。

3 第二回アンケート調査より

本校ではアンケート調査を年間二回（第一回は六月三十日実施）行っています。

第二回のアンケート（九月三十日実施）結果では、「自分が嫌な思いをしたことがあるか」との質問に「ある」と回答した生徒、「友人が嫌な思いをしているのを見たか」

聞いたか、聞いたことがあるか」という質問に「ある」と回答した生徒が複数名いました。「けんか」や「ふざけ合い」であつても、生徒の感じる被害性に着目して慎重に状況を確認し、「いじめの兆候」を見逃さずに対応しました。

また、「嫌な思いをした時、誰に相談しますか」との質問に対し、「八割以上の生徒が「友人・親・先生」と回答しており、身近な相手に相談しようとする考えを持っていることは、コロナ禍において、不自由な生活を強いられる中で、お互いに信頼できる関係にあると言えます。

本校では、平成二十五年に成立した「いじめ防止対策推進法」を踏まえ、「北海道日高高等学校いじめ防止基本方針」を策定し、いじめ防止の指導体制・組織対応、いじめの予防・早期発見・再発防止、ネットいじめへの対応など、学校いじめ対策組織を設置しています。

新型コロナウイルス感染症拡大により、今まで以上に生徒たちは表出しないストレスを抱えている可能性もあります。相手には、嫌な思いをさせないために、配慮があればいいと思います。心配りがある問題に発展しないケースが多々あると思われ、いじめが多々あるな指導をしていきたいと考えています。今後とも日高高等学校の教育活動に対して、ご理解ご協力のほどよろしくお願致します。

写真部全道大会 結果報告

十月二十一日から二十三日にかけて、稚内市にて行われる予定だった第四十四回全道高等学校写真展・研究大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となり、審査会のみが十月二日に行われました。

本校からは苦小牧支部予選での審査会で選ばれた、三年・菊池君の『暗心』（あんしん）が出品され、佳作に選ばれました。苦小牧支部から出品された作品は全部で二十八点あり、その中で佳作以上で選ばれたのは九点のみでしたので、十分に快挙と言える結果だったと言えます。

来年度の生徒たちには、この新型コロナウイルス禍においてもなお写真の腕を磨き続け、全道大会（北見市の予定）に向けてたくさん写真を撮って、写真を楽しんでほしいと思います。

（文責 西村 元志）



『暗心』（撮影：菊池 学人）